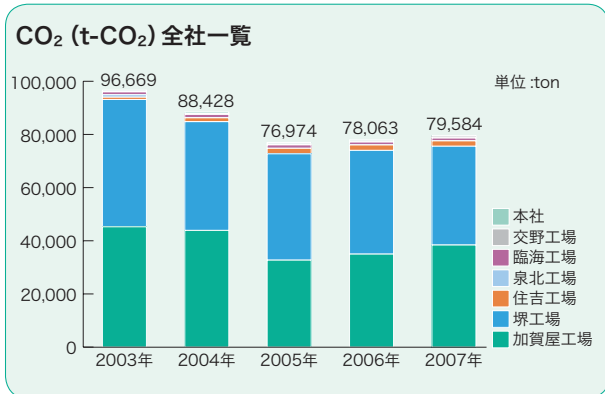


地球温暖化防止への取り組み

CO₂ 排出量の推移

当社は溶解・鋳造部門を持つ鉄管系と加工組立部門を持つ機械系工場から成り立っています。京都議定書の基準年である1990年において当社のCO₂排出量は131,145t-CO₂でした。鉄管系工場は当社全社の約95%の排出量です。より少ないエネルギー（コークス・電力・都市ガス13A等）で原料の溶解が可能なシステムを構築し、コージェネ設備はもちろんキュボラ設備更新の度に省エネルギーを目指し活動を行ってきました。

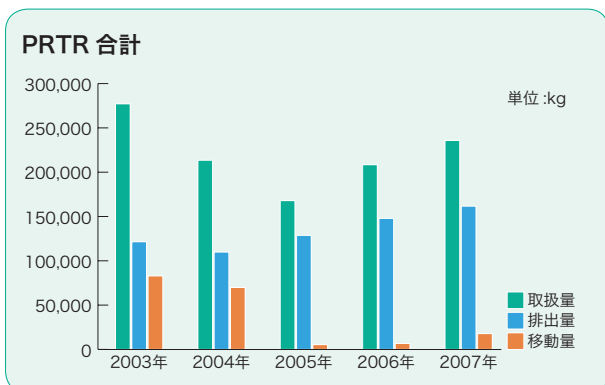
目標値：省エネを年1%以上行います。1990年を基準とし、2010年度に-40%を目指します。



※泉北工場は2004年12月に閉鎖

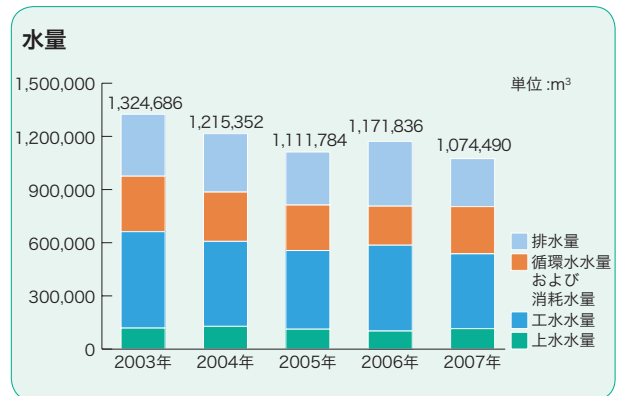
PRTR 法対象物質の推移

主に製品塗装に使用されるキシレン、トルエン、エチルベンゼンのVOCが90%以上を占めます。鉄管製品への塗装量が増加し、取扱量が増加しています。低炭素社会実現のための重要な事項として、2010年度に向け削減に取り組めます。



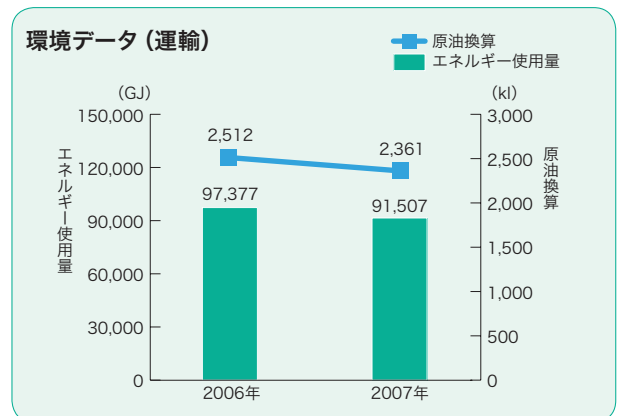
生産5工場の水使用量合計値

水資源の確保が重要な課題ですが、当社の生産工場でも水使用量の削減に取り組んでいます。2007年度の生産5工場の水量合計は、1,074百万m³（前年度比7.6%削減）となりました。



環境データ (運輸)

2006年度からエネルギー使用量を集計し始めました。2007年度は、前年度比6.0%の削減となっています。継続して削減に努めます。



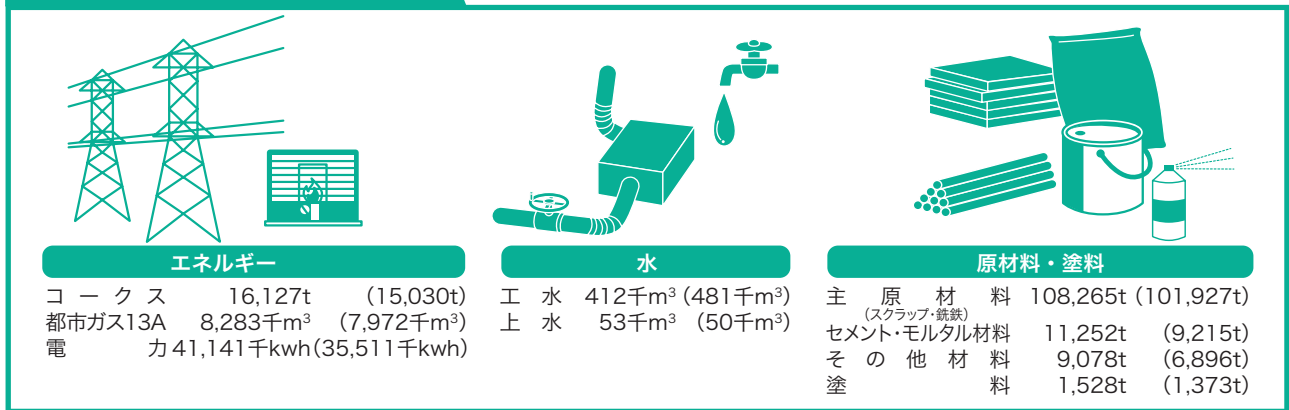
環境面からみた物質フロー

人々の暮らしを支える水道管やガス管など、産業の大動脈として大きな役割をこなすダクタイル鉄管は、大都市、郊外、農村などあらゆるところで活躍しています。敷設環境の厳しい条件下で高い適応性、優れた耐久性、容易な施工性を誇るクリモト・ダクタイル鉄管は、管路材料として水道事業・ガス事業・農業用水事業・下水道事業・工業用水事業

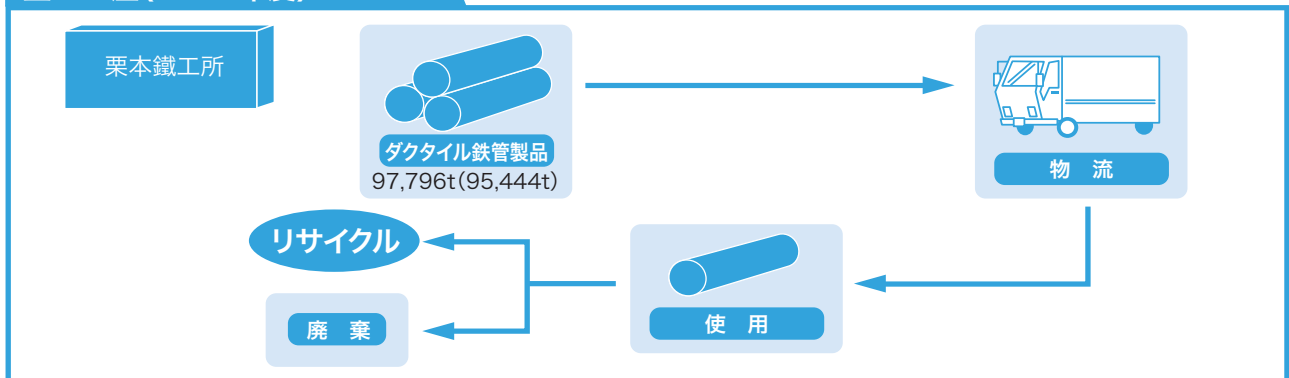
を中心に広く使用されています。これらの製品は、リサイクル性の高い「鉄」が原材料となります。ダクタイル鉄管の製造に必要な原材料・塗料、水、エネルギーを有効に活用して、排出物を削減する努力をしております。ダクタイル鉄管製造の2工場の環境からみた物質フローを示します。

インプット(投入) (2007年度)

※数値は2007年度、()内数値は2006年度



生 産 (2007年度)



アウトプット(排出) (2007年度)

